

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	地域分析 (Regional Analysis) 393113-14100					担当教員	鯉江 康正 (コイエ ヤスマサ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
近年、地域は非常に重要な役割を果たすようになってきている。本講義では地域分析の手法を学習する。研究対象は地域の社会経済現象であり、分析手法は地域分析で、分析のための道具はコンピュータである。授業は実証的な地域分析および経済分析の実例をあげ、分析の目的、分析手法、利用する統計データおよび分析結果について講義し、その後分析に必要な計算方法について演習を行うことによって、地域分析ができるようになることが目標である。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／専門的知識・技能を活用する能力／情報収集・分析力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
実習を伴う授業であるので、授業時間だけでは進捗に差ができることは避けられない。各回に行ったことについては確実に復習をして遅れないようにすることが重要である。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
表計算ソフト「エクセル」を利用するため、「コンピュータリテラシー2」の単位を取得済みであることが望まれる。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) エクセルの基本的関数を用いてデータ処理ができる。 (ii) 地域分析と地域概念を理解したうえで、必要な統計データの検索ができる。 (iii) 地域分布に関する分析（割合、増減率、集中指数、重心の計測など）ができる。 (iv) 地域特性に関する分析（特化係数、比率の標準化、規模分類・機能分類、中心性の計測、地域経済基盤分析など）ができる。 (v) 地域変化に関する分析（地域変化の計測・比較、都市化の分析など）ができる。 (vi) 地域分布・地域特性・地域変化に関する分析手法を用いて、地域的關係の分析ができる。
⑥ テキスト（教科書）
テキストは使用しない。授業時間にレジュメを配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
大友篤（1997）『地域分析入門 改訂版』東洋経済新報社（ISBN 4-492-31239-0）

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) データ処理入門	データ処理に関して、エクセルを自由に使いこなせる	データ処理に関して、エクセルの基本的関数を使いこなせる	データ処理に関して、関数ライブラリ等を使えば基本的関数を使いこなせる	データ処理に関して、関数ライブラリや教員等の支援を受ければ基本的関数を使いこなせる	データ処理に関して、関数ライブラリや教員等の支援を受けても基本的関数を使いこなせない
(ii) 地域分析と地域概念	地域分析と地域概念について理解し、必要なデータ検索をでき、分析に必要な加工ができる	地域分析と地域概念について理解し、必要なデータ検索をでき、指示されれば加工もできる	地域分析と地域概念について理解し、必要なデータ検索をできる	地域分析と地域概念について理解し、教員等の支援があればデータ検索をできる	地域分析と地域概念についてよくわからず、教員等の支援を受けてもデータ検索をできない
(iii) 地域分布の分析	地域分布について、資料等に頼らず授業内容を越えた分析もできる	地域分布について、資料等に頼らず分析できる	地域分布について、資料等を見ながら分析できる	地域分布について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて分析できる	地域分布について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても分析できない
(iv) 地域特性の分析	地域特性について、資料等に頼らず授業内容を越えた分析もできる	地域特性について、資料等に頼らず分析できる	地域特性について、資料等を見ながら分析できる	地域特性について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて分析できる	地域特性について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても分析できない
(v) 地域変化の分析	地域変化について、資料等に頼らず授業内容を越えた分析もできる	地域変化について、資料等に頼らず分析できる	地域変化について、資料等を見ながら分析できる	地域変化について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて分析できる	地域変化について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても分析できない
(vi) 地域的関係の分析	地域的関係について、資料等に頼らず授業内容を越えた分析もできる	地域的関係について、資料等に頼らず分析できる	地域的関係について、資料等を見ながら分析できる	地域的関係について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて分析できる	地域的関係について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても分析できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%		20%			30%		100%
(i) データ処理入門	7%		3%			4%		14%
(ii) 地域分析と地域概念	3%		1%			2%		6%
(iii) 地域分布の分析	10%		4%			6%		20%
(iv) 地域特性の分析	16%		6%			10%		32%
(v) 地域変化の分析	7%		3%			4%		14%
(vi) 地域的関係の分析	7%		3%			4%		14%
フィードバックの方法	各章の終了後、練習問題を課題として提出してもらい、間違いがあれば再提出を促す。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の進捗には大きなばらつきが生じることは避けられないため、学生が協力して課題にチャレンジすることによって、学生自ら学ぶ姿勢を呼び起こす。さらに、応用練習問題を自分で解くことによって、習熟度の向上に努めていく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	データ処理入門①（基本的な関数の使い方とグラフの作成）	エクセルの基本関数の復習、グラフ作成	60分
2	データ処理入門②（利用頻度の多い関数の使い方、様々な代表値の使い方）	エクセルの基本関数の復習、様々な代表値の理解、データ処理に関する課題の提出	90分
3	地域分析と地域概念	統計データの検索	60分
4	地域分布の分析①（地域別割合、増減率、年平均成長率）	地域別割合、増減率・成長率の練習問題	60分
5	地域分布の分析②（集中指数）	集中指数に関する練習問題	60分
6	地域分布の分析③（重心、密度）	重心、密度に関する練習問題。地域分析に関する課題の提出	90分

7	地域特性の分析①（構成比、特化係数、専門化係数）	構成比、特化係数、専門化係数に関する練習問題	60分
8	地域特性の分析②（比率の標準化）	比率の標準化に関する練習問題。地域特性の分析（基礎編）の課題提出	90分
9	地域特性の分析③（都市の規模分類、産業機能分類）	都市の規模分類、産業機能分類に関する練習問題	60分
10	地域特性の分析④（都市の中心地的機能分類、都市の中心性）	都市の中心地的機能分類、都市の中心性に関する練習問題	60分
11	地域特性の分析⑤（地域経済基盤の分析）	地域経済基盤の分析に関する練習問題。地域特性の分析（応用編）の課題提出	90分
12	地域変化の分析①（地域変化の計測）	地域変化の計測に関する練習問題	60分
13	地域変化の分析②（地域変化の比較、都市化の分析）	地域変化の比較、都市化の分析に関する練習問題。地域変化の分析の課題提出	90分
14	地域的関係の分析①（新潟県の人口を題材とした応用問題）	新潟県の人口を題材とした練習問題	60分
15	地域的関係の分析②（新潟県内市町村の人口を題材とした応用問題）	新潟県内市町村の人口を題材とした練習問題。地域的関係の分析に関する課題提出	90分

⑫ アクティブラーニングについて			
知識定着・確認型 AL を採用する。各内容について講義と実習を行う。学生自ら及び学生が協力して問題を解くことによって、分析力を高めていく。練習問題の解答を示すことによって、確実に実習を終わらせられるようにする。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
前職の民間シンクタンクでは、「整備新幹線の経済効果分析」「道路整備の効果と評価に関する調査」「公共投資の九州地域経済に与えるインパクト分析」などの調査研究活動に従事してきた。また、「長岡市総合計画策定委員会」「長岡市都市計画マスタープラン策定委員会」「長岡版広域道路ビジョン懇談会」「長岡市住宅政策マスタープラン改定検討会議」「地域資源発信拠点整備検討委員会」などの委員を歴任している。
実務経験と授業科目との関連性
シンクタンクにおける経験から実際のデータを扱うときの問題点も明らかになっており、学生にその経験を伝えることができる。たとえば、エクセルの解説本では必ずデータは完成されたものであるが、実際のデータでは秘匿があったり、不明などが含まれたりしている。それらを扱う方法など実践的な講義が可能である。また、総合計画に代表される各種政策課題を扱った報告書においては、必ず現状と課題・問題点が必要になる。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状課題を効率よくまとめたり分析したりする能力を養うことができる。